

# 「2023年度日本史進委員会の博学連携報告」

—神奈川県立歴史博物館との合同例会—

鎌倉学園学園 風間洋

## はじめに

日本史推進委員会(以下、委員会)では、一昨年度から新歴史科目「歴史総合」や「日本史(世界史)探究」の導入を見据えて生徒の歴史的思考力の養成に適切な神奈川県立歴史博物館(以下、県博)と連携を進めてきた。今年度の連携事業を簡単ではあるが以下に紹介したい。昨年度までの経緯についてはすでに述べたことがあるので※、そちらを参照されたい。

### ① 県博の展示資料を教材化する試み 2023年7月6日 県立総合産業高校

県博の特別展示で紹介された「松平造酒助江戸在勤日記」は、一庄内藩士が江戸在勤中の私事から江戸市中取り締まりや庄内藩の西洋軍備への様子など幕末開港後の混乱する世相までが詳細に記録されている日記で、処々にユーモラスな挿絵が書き込まれているのが特徴である。展示を担当された寺西明子・根本佐智子両学芸員より日記が書かれた歴史的背景や資料的価値を解説いただいた後、桐生海正氏(足柄高校)により、「在勤する地方武士が見た江戸」という視点から授業のワークシートを示されて課題や展望をまとめられた。

### ② 学芸員の歴史研究の成果を高校生に追体験を 2023年11月22日 県博講堂

幕末から近代史を専門とされる嶋村元宏学芸員から「絵画史料を読む-ペリー艦隊ハイネ&ブラン作大型石版画を中心に-」という報告がなされた。教科書の幕末開国の単元で掲載される『ペリー提督日本遠征記』収録画像を題材として、ドイツ人画家ハイネが事実と異なる人物や情景を描いた意味や幕末期の欧米人の日本人に対するイメージに結び付けて考察を深めさせようとするものであった。資料を熟覧することで生じた通説への疑問や新事実の発見の喜びという歴史研究の面白さを高校生にも追体験してもらいたいという意図が伝わる内容で、今後県博の高校生用の催事として実施される予定であるという。

### ③ 学芸員・教員の協業による館蔵歴史資料の教材化 2024年3月6日 県博講堂

昨年に引き続き、本田六朗氏(横浜緑園高校)が、武田周一郎学芸員の資料提供と助言を受けた授業実践を報告された。今回は関東大震災の単元を扱う授業で横浜市街の震災直後の写真、当時の混乱を語る証言集や女学生の作文、市街の延焼状況の調査地図など、多角的な資料を読み解くことで生徒に被災状況をイメージさせ、過去の災害を現在の自分事としてとらえさせる工夫が盛り込まれたものであった。報告後、震災直後に国や県が詳細に被害状況を調査した「横浜市火災延焼状況図」の原本を閲覧する機会を得ることが出来、地理や公共、地学など科目を横断した探求学習の可能性に言及する意見などが出された。

## おわりに

再来年度に県博は長期休館のため展示業務はできないが、その間もこの連携事業は継続することで合意している。ただ留意すべきは委員会のメンバーのだけがその恩恵を受けることが目的ではない。県博が所蔵する豊富な地域の歴史資料や学芸員の専門知識を活用し、成果を県内の教員や生徒の歴史学習の場に還元していくことが重要である。今後は、この連携の成果を学校現場へ届ける具体的な方策を考える段階に活動を進めていきたい。

※風間・桐生・高橋「博学連携の試み(副題略)」神奈川県高等学校社会科部会歴史分科会『研究報告』51号 2023年